

バラ(花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	べと病	灰色かび病	苗木枯病	黒星病	さび病	うどんこ病	炭疽病	斑点病	ゆめ進
ハーモメイト溶	NC		1	-		◎				◎			
ハツパ乳	NC		-	-						◎			
クムラス	M2		-	-						◎			
アグロケア水	BM2		*c	-						◎			
インプレッションクリア	BM2		*c	-						◎			
トップジンM水㊟	1		-	5				◎		◎			
トップジンMペースト	1		*b	5									◎
ベンレート水㊟	1		-	6				◎		◎			
バレード20FL	7		*a	3				◎		◎			
アンビルFL	3		*a	7						◎			
サブロール乳	3		*d	5				◎		◎			
サルバトーレME	3		*a	7				◎		◎			
セーフガード乳	3		*a	5				◎		◎			
トリフミン水	3		*a	5						◎			
マネージ乳	3		*a	6				◎		◎			
ラリー乳	3		*a	5				◎		◎			
ルピゲン水	3		-	6						◎			
フルピカFL	9		*a	5		◎		◎		◎			
ポリオキシシナL乳	19		*a	8						◎			
サンヨール	M1		*d	8		◎		◎		◎			
エムダイファー水	M3		*a	8	◎	◎			◎		◎		
ジマンダイセン水	M3		-	8	◎	◎		◎	◎		◎		
オーソサイド水80	M4		-	8			◎	◎					
ダコニール1000	M5		*e	6				◎		◎		◎	
ラビライト水	1・M3		-	5				◎		◎			
カスミンボルドー	24・M1		*a	6						◎			

㊟：チオファネートメチル含有剤 ◎：ペノミル含有剤 ㊟を使用した場合には同じ作での㊟は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く）。

*a:発病初期 *b:剪定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後

*c:発病前～発病初期 *d:発生初期 *e:発病前～発病初期

バラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	ア ザ ミ ウ マ 類	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	チ ユ ウ レ ン ジ ハ パ チ	ゴ マ ダ ラ カ ミ キ リ	コ ガ ネ ム シ 類	フ ラ ー バ ラ ゾ ウ ム シ	ハ ダ ニ 類
コロマイト水	6		*a	2								◎
スパイデックス	-		*a	-								施
スパイデックスバイタル	-		*a	-								施
ハツパ乳	-		-	-								◎
オルトラン液	1B		*a	5		◎		◎				
サイアノックス乳	1B		-	6		◎						
ジェイエース溶	1B		*a	5	◎	◎						
ジェネレート溶	1B		*a	5	◎	◎						
スミチオン乳	1B		-	6		◎					◎	
ペンタック水	2A		-	-								施
テルスターFL	3A	劇	-	3								◎
マブリック水20	3A	劇	*a	2		◎						◎
ロビンフード	3A		-	6					◎			
アドマイヤー 1 粒	4A		*b	5		◎						
ダントツ溶	4A		*a	4	◎					灌		
ベストガード溶	4A		*a	4	ミ	◎	◎					
マツグリーン液 2	4A		*a	5				◎				
カスケード乳	15		*a	3	ミ							◎
マイトクリーン	21A		*a	1								施
ウララ50D F	29		*a	6		◎						
オレート液	-		*c	-		◎						
サンヨール	-		*a	8		◎		◎				◎

*a: 発生初期 *b: 生育期 *c: 発生初期～収穫前日まで
 ミ: ミカンキイロアザミウマ 施: 施設栽培 灌: 株元灌注

バラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
灰色かび病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設では過湿に注意する。 2. 老化した花や罹病花等を除去する。 3. 次の薬剤のいずれかを散布する。 ハーモメイト水溶剤 800倍 ゲッター水和剤㊟●* 1000倍 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍 	●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
黒星病	生育期	・発生前から次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000 (FL) 1000倍 トップジンM水和剤㊟● 1500～2000倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍 ベンレート水和剤㊟● 2000～3000倍 マネージ乳剤● 500～1000倍	露地栽培で春と秋に発生しやすい。 ●耐性菌を生じやすいので連用しない。
さび病	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍	初秋に発生が多い。
うどんこ病	生育期	・発生初期から次の薬剤のいずれかを散布する。 ダコニール1000 (FL) 1000倍 ポリオキシシンAL乳剤 500～1000倍 パンチョT F 顆粒水和剤●* 2000倍 フルピカフロアブル 2000～3000倍	春季及び秋季など、昼夜の温度較差が大きく、かつ夜間の湿度の高いときにやすい。 ●耐性菌を生じるおそれがあるので連用しない。 *花き類・観葉植物での登録
根頭がんしゅ病	定植前	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接木部分や地際に傷をつけない。 2. 次のいずれかで土壤消毒する。 ガスタード微粒剤* バスマイド微粒剤* いずれも20～30kg/10a 	*花き類・観葉植物での登録

バラ (花き類・観葉植物の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アドマイヤーフロアブル* 2000倍 オルトラン水和剤* 1000～1500倍 ベストガード水溶剤 1000～2000倍	バラは薬害がやすいので、高温時や多湿時の散布はさける。 *花き類・観葉植物での登録
ミカンキイロアザミウマ	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤 2000倍 ベストガード水溶剤 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [＃] 2000倍	[＃] 花き類・観葉植物のアザミウマ類での登録
チュウレンジハバチ	4～5月	1. 施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 サンヨール 500倍	幼虫ははじめ葉に群生しているので捕殺する。
ケムシ類	生育期	・施設の側面および妻面に防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。	ケムシ類とは、ガの幼虫で、一見して長い毛やトゲが全面にあるもの。
ネコブセンチュウ		・土壌消毒をする(土壌消毒の項参照)。	
ハダニ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 カスケード乳剤 1000倍 コロマイト水和剤 2000倍 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 テルスターフロアブル 4000倍 ペンタック水和剤 [＃] 1000～1500倍 マブリック水和剤20 2000倍	薬剤抵抗性がつきやすいので、同一薬剤の連用を避け、数種類の薬剤を選びローテーション散布を行う。 *花き類・観葉植物での登録 [＃] 施設栽培での登録

バ
ラ